

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	健康推進課	氏名	服部 聡太
派遣先 団体名	吉田町地域で子どもを育てる会		

① 研修の日時

- ・平成30年7月31日(火) 9時～平成30年8月1日(水)11時
- ・平成30年8月 1日(水)16時～平成30年8月2日(木)15時

② 研修の内容(できるだけ詳しく記載してください。)

雲南市吉田町内の小学校6年生が参加する宿泊研修(吉田町少年自然塾2018)に参加し、運営補助等を行った。

【1日目(7月31日)】

<AM>

・テント設営

開講式、オリエンテーションを終えたのち、テントを設営。  
スタッフが少し手を貸しながらも、説明書を見ながら子どもたちの力でテントを組み立てた。



(試行錯誤しながらテントを組み立てました)

<PM>

・八重滝散策

日本の滝百選にも認定されている八重滝は、8つの滝からなっており、上流に位置する八塩滝の滝壺付近で水遊びやスイカ割りを楽しんだ。

滝の水はひんやりとしており、とても心地よかった。

・夕食づくり

飯ごうで炊いたお米を使ってしし肉のカレーを釜戸で調理。

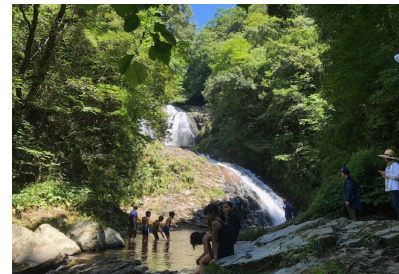
・入浴

男女が日替わりで五右衛門風呂に入浴

・星空観察

観察キットを使って、夏の星座を観察

天気が良かったため、たくさんの星が出ており、夏の大三角形などの星座や、この日最接近した火星も観察できた



(八塩滝で水遊び!)



(雲もなく、たくさんの星が観察できました)

【2日目(8月1日)】

<AM>

・竹細工

ノコギリやナタで、竹を細かく割り、その竹を小刀で加工。

Myはし、My食器、竹串を作成した。

刃物を扱うため、スタッフが丁寧に指導した。



(ノコギリは引くときによく切れるぞ!!)

<PM>

・夕食づくり

竹細工で作った竹串でヤマメを刺し、焼き魚を作った。スタッフに串を刺す位置などを教わりながら作業したが、ヤマメは粘液でヌルヌルしており、串に刺すのに苦労した様子だった。



(焦げないように丁寧に焼き上げました)

・キャンプファイヤー

参加者に加え地域住民も集まり、大勢で火を囲んだ。司会役の進行のもと、まずは自然塾参加者の代表2名が松明を持って入場し、点火。「もえろよもえろ」を歌いながら次第に燃え上がる炎を見つめ、歌い終わったのちに、「猛獣狩り」などのレクリエーションを行って、参加者同士の親交を深めた。キャンプファイヤーの炎を使ったパフォーマンスや、花火大会もあり、参加者全員が楽しめる内容だった。



(子どもたちが松明を持って退場するフィナーレはとても感動的でした)

【3日目(8月2日)】

<AM>

・ぐるぐるパン作り

まずはパン生地を作成し発酵させ、前日に作った竹串に巻き付けて、釜戸で調理。スタッフの指導のもと、丁寧に材料を量り、力いっぱい生地をこねた。焦げないように、火のそばで竹串を回しながら丁寧に焼き上げた。



(パンはやっぱり焼きたてがうまい!!)

・昼食

そうめん流しを行った。そうめんだけでなく、トマトやジャガイモなどの野菜も流れてきて盛り上がった。8m弱の大きな竹は、非常に真っすぐで、節も丁寧にやすりで削られており、子どもたちが安全に楽しめるようにとのスタッフの想いが込められた一品だと感じた、



(トマトをつかむのが難しかった…)

<PM>

・テント片付け

苦戦しながら立ち上げたテントを、説明書を見ながら片付けた。大人の手をほとんど借りることなく片付けることができた。

・川遊び

閉講式まで空き時間があり、近くの川で水遊びを行った。水切りや石積み遊びをして楽しんだ。中には蝶を追いかける子どももおり、最後の最後まで楽しめた様子だった。



(水切りの最高記録は6回でした)

※写真は田井交流センターFBページより

### ③ 研修の感想

(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)

吉田町少年自然塾は「創造力」や「協調性」など、成長していく中で必要となる力を、自然の中での集団生活をとおして育むことを目的に、20数年もの間、地域に愛されながら開催されてきた。

活動の中では、テント張りのように子どもたちが苦戦する場面がいくつかあったが、子どもたちが自分たちで考え、工夫し、行動できるよう、大人たちの助言は最小限にする必要があり、そのさじ加減が非常に難しかった。

中には、「暑い」や「難しい」などの言葉を漏らすこともあったが、子どもたちが最後まであきらめず全ての活動に取り組むことができたのは、各交流センターやコーディネーター、地域住民の皆さんの支えがあっただけでなく、強く感じた。

長い歴史を持つこの活動であるが、過去に自然塾に参加した児童が大人となり、その子どもが現在の自然塾に参加しているという光景も見られた。

また、キャンプファイヤーに多くの地域住民が参加している光景を見ると、自然塾がこの地域にとってどれだけ必要とされ、愛されて続けられてきたかがよく分かった。

県内の多くの自治体は、人口減少と少子高齢化の進展による財政基盤の弱体化や町村合併による行政の広域化により、行政側が公共サービスの提供や住民ニーズへの対応する力が弱まりつつある。

その中で、雲南市では、市町村合併を皮切りに、地域住民で構成される地域自主組織を設立し、地域の総力を結集し、地域課題を自ら解決していく小規模多機能自治の仕組みがいち早く作り上げた。

吉田町少年自然塾もその地域自主組織が主体となって行うほか、小中学校に配置された地域コーディネーター及び教育支援コーディネーターが学校と地域の橋渡し役となって活動をサポートしている。

このたび研修として参加させていただいたことで、雲南市における小規模多機能自治の仕組みを現場で感じる事ができた。

最後に、大変微力ではありましたが、研修生として受け入れてくださいました吉田町地域で子どもを育てる会の皆さま、誠にありがとうございました。

### ④ その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1)研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2)報告書は、平成31年1月31日までに人事課あてにメールで提出してください。